

泌尿器科

診療科名	泌尿器科（文責者 穴戸 俊英）
科長名	穴戸 俊英
診療科概要	1992年に開設し、尿路生殖器の腫瘍を中心に前立腺肥大症・結石・上部及び下部尿路感染症・尿失禁等の泌尿器ならびに男性生殖器疾患を専門とする。外来は二つの診察室で診療を行い、一日当たりの受診患者数は約85名で、開設以来二万人を越す受診患者が登録されている。病棟の定床は18床で、2007年度の入院患者数は610名、平均在院日数は8日前後と院内でも最短に近い。多摩地区の中核医療施設の一つとして周辺施設からの紹介も多いが、一方では同じ多摩地区の大学病院などと“多摩泌尿器科医会”を形成し、研究会・症例検討会・市民公開講座等を開催し、泌尿器科医としての技術や知識の修得のみならず一般市民への医療知識の普及にも努力している。
取得可能認定医専門医	日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医 日本泌尿器科学会認定泌尿器科指導医 日本がん治療認定医
指定研修施設の名称	日本泌尿器科学会認定専門医基幹教育施設 （認定番号940034）
修養年限	5年
プログラム 1年次	前半の半年間は主に病棟においてチーフレジデントの指揮の下に入院患者の診察・術前術後の処置・小手術の助手をつとめ泌尿器科の専門性を理解するとともに膀胱鏡検査や腎瘻造設術など特異な検査や処置の概要を理解する。また、指導医が行う入院患者への説明に同席し、患者やその家族への対応方法を修得する。後半には病棟勤務に加え週一回の外来診療を担当し、外来における問診技術・診断の為の検査の組み合わせ方法・患者への対応などを修得する。
2年次	外来診療については週二回の外来を受け持ち、泌尿器科医としての外来診療におけるノウハウを修得する。病棟においては指導医ならびにチーフレジデントの指揮の下に患者への説明・小手術の第一助手、大手術の第二助手・手術予定患者の術前術後管理・化学療法を組み立てと管理を行い泌尿器科医として要求される技術・知識の修得を行う。
3年次	プレレジデントとして病棟ではチーフレジデントの下で小手術は執刀医としてまた大手術には第一助手として参加する。また、チーフレジデントの不在の際にはその代理として指導医の下で病棟管理を行う。外来では週に二回以上の外来を担当し、外来患者の診察手順や治療方針を自主的に検討・決定する能力を修得する。
4年次	チーフレジデントとして病棟における全入院患者の管理・治療に責任を持ち、小手術ではプレレジデントの手術指導を行い、大手術では指導医の指導の下或いは補助の下で執刀医を務め泌尿器科医として必要な全ての知識・技術の習熟を計る。この年度は外来の担当は週一回に減少する。また、この年度の終了直前に受験資格が取得できる泌尿器科専門医試験に向けての受験勉強を行い受験に備える。
5年次	専門医資格を修得後、ポストチーフレジデントとして独り立ちし、チーフレジデント以下の後期研修医を指導して泌尿器科における全ての手術・処置・外来診察を行う。博士号の修得に向けての研究を開始する。

スタッフ紹介	部長 穴戸 俊英 講師 (日本泌尿器科学会指導医・日本がん治療認定医)
	相澤 卓 非常勤講師
	林 建二郎 助教
	三間 隆史 助教
	鈴木 雄太郎 助教
週間スケジュール	病棟はB-4東病棟であるが、状況に応じて他の病棟にも入院患者が散在する。毎朝8:45頃よりチーフレジデントによる朝の回診がある。
月曜日	午前 - 病棟 ポストチーフレジデント回診、処置、ESWL 午後 - 病棟 前立腺生検、ESWL、科内検査
火曜日	午前 - 病棟 チーフレジデント回診、処置 午後 - 病棟 前立腺生検
水曜日	午前 - 病棟 チーフレジデント回診、大手術 午後 - 病棟 大手術、前立腺生検 17:00~病棟カンファ(医師、看護師、薬剤師、他)、部長回診、外来カンファ、医局会、抄読会
木曜日	午前 - 病棟 チーフレジデント回診、処置 午後 - 病棟 科内検査、部長回診
金曜日	午前 - 病棟 チーフレジデント回診、中~小手術 午後 - 病棟 中~小手術、科内検査、処置
土曜日	午前 - 病棟 小手術、ESWL

具体的カリキュラム

1 待遇

後期研修医として八王子医療センターに所属し、所定の給与が支給される。健康保険・厚生年金に加入する。週に1日の研究日が認められる。研修医として勤務開始後3カ月経過してからは泌尿器科のOn callに組み込まれる。

2 研修

指導医に下で泌尿器科医としての知識・技術の習得を行い、泌尿器専門医の資格取得を目標とする。当科ではチーフレジデント制をとっており、チーフレジデントを終了した時点で一人前の泌尿器科医として自立できることをめざしている。

一年目の前半は泌尿器科医の求められる基礎的手技を経験し、修得する。具体的には導尿・膀胱鏡検査といった経尿道の手技を経験し、その手技の危険性を充分理解させる。また、腎瘻造設術などの経皮的手技の助手を務めさせ、具体的な手技を理論的に理解させる。また、ESWLや前立腺生検・包茎手術などでも助手を務めさせ手技・理論を理解させる。後半では外来診察を週に一回担当させ、外来患者の診断に必要な検査の組み立て、治療方針の検討、画像検査の読影ができるよう指導する。尚、外来では第二診察室を担当し、その場で判断ができない場合は第一診察室を担当する指導医にその都度相談させる。また、指導医はその日の診察終了後に研修医の診療録をチェックして、問題点を発見した場合にはその対応を指導する。また、泌尿器科の当直(On call)は3カ月目より参加し、夜間の救急や病棟の急変に対応できるよう経験を積ませる。

二年目からは外来診療を週に二回担当する。病棟ではチーフレジデントやプレレジデントの助手として手術に参加し、ESWLや前立腺生検などは一人で施行できるようにする。又、術前術後の処置や化学療法を組み立て等にも積極的に参加して患者管理を修得する。また、患者への説明も簡単な症例では一人で十分に行うことができるよう疾患やその予後について勉強する。

三年目はプレレジデントとしてチーフレジデントを補佐し、指導医やチーフレジデントの指導の下に小手術では執刀医として、大手術では第一助手として泌尿器科の行うあらゆる手術を経験する。

四年目はチーフレジデントとして指導医やスタッフとの相談の下に全入院患者の管理を行う。また、全ての手術に参加し、大手術では指導医の立ち会いの下に執刀医を務める。自己の技術では不十分な部分については指導医の援助を受け手術を遂行する。また、中～小手術では自ら執刀医を務めるかブレジデントを指導して手術を行わせる。他の診療科からの相談に対応し、原疾患を考慮しつつ泌尿器科的治療が検討できるよう他科の医師と討論できるよう知識を修得する。尚、この年度では外来診療は週に一回に減らし、病棟勤務が主体となる。また、四年目の研修が終了した時点で、専門医試験の受験資格が得られる。これに合格して資格を得られるよう準備を始める。

五年目はそれまでに修得した知識・技術を完全に自己の物とする時期で、指導医の存在なしで大手術をチーフレジデント以下の者で行い、外来では自己の判断の下に治療方針を決定し、施行できるようになる。

3 研修

研修医一年目は日本泌尿器科学会東京地方会や多摩泌尿器科学会等の小さな学会に症例報告を数回行わせる。行った報告はその後症例報告としていずれかの雑誌に投稿することが求められる。

4 最後に

本施設は大学病院の分院であると同時に八王子の市民病院としての立場にもある。この事実は当センターが第一線の臨床病院であることを示している。新鮮な症例が日夜訪れ、それに対応していくことが望まれる。しかし、一方の大学病院としての立場からは、証拠に基づかない医療は許されず、あくまで学問的事実に基づいた医療を行う必要がある。すなわち、ここで勤務する医師は常に新しい知識を学習しつつそれをその場で使用していく必要がある。後期研修医として専門知識や技術を修得する事を希望する者にとっては最適な研修施設であると考え。